

ディスカッション観察支援システムFishWatchr を用いた実践手法の提案

山口昌也

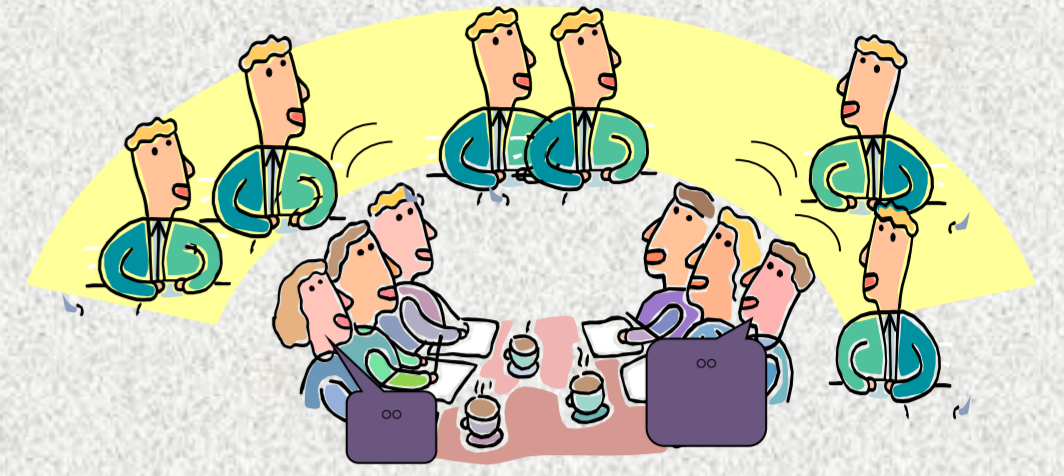
(国立国語研究所)

大塚裕子

(はこだて未来大学)

北村雅則

(南山大学)



概要

背景

- 教育における言語活動の観察
 - フィッシュボール(ディスカッション教育)
 - ロールプレイ, スピーチ練習(日本語教育など)
- 観察結果の利用
 - グループでの評価活動
- 支援方法
 - ビデオの利用
 - アノテーションツール (Driver, ELAN, STUDIOCODE など)

他者からの
フィードバック

他者への教授による
自発的な学び

教師の振り返りなど
専門家の利用が主流

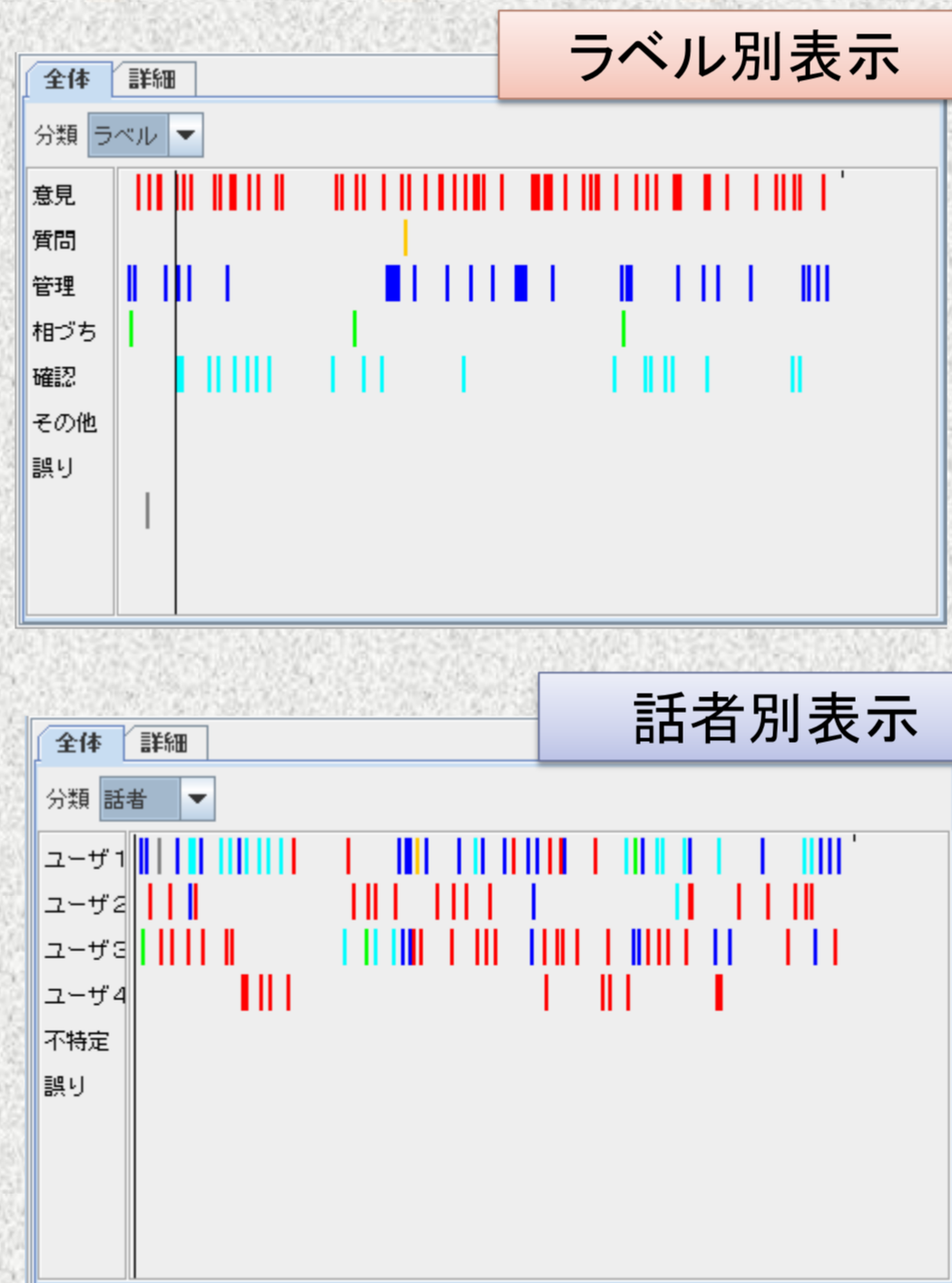
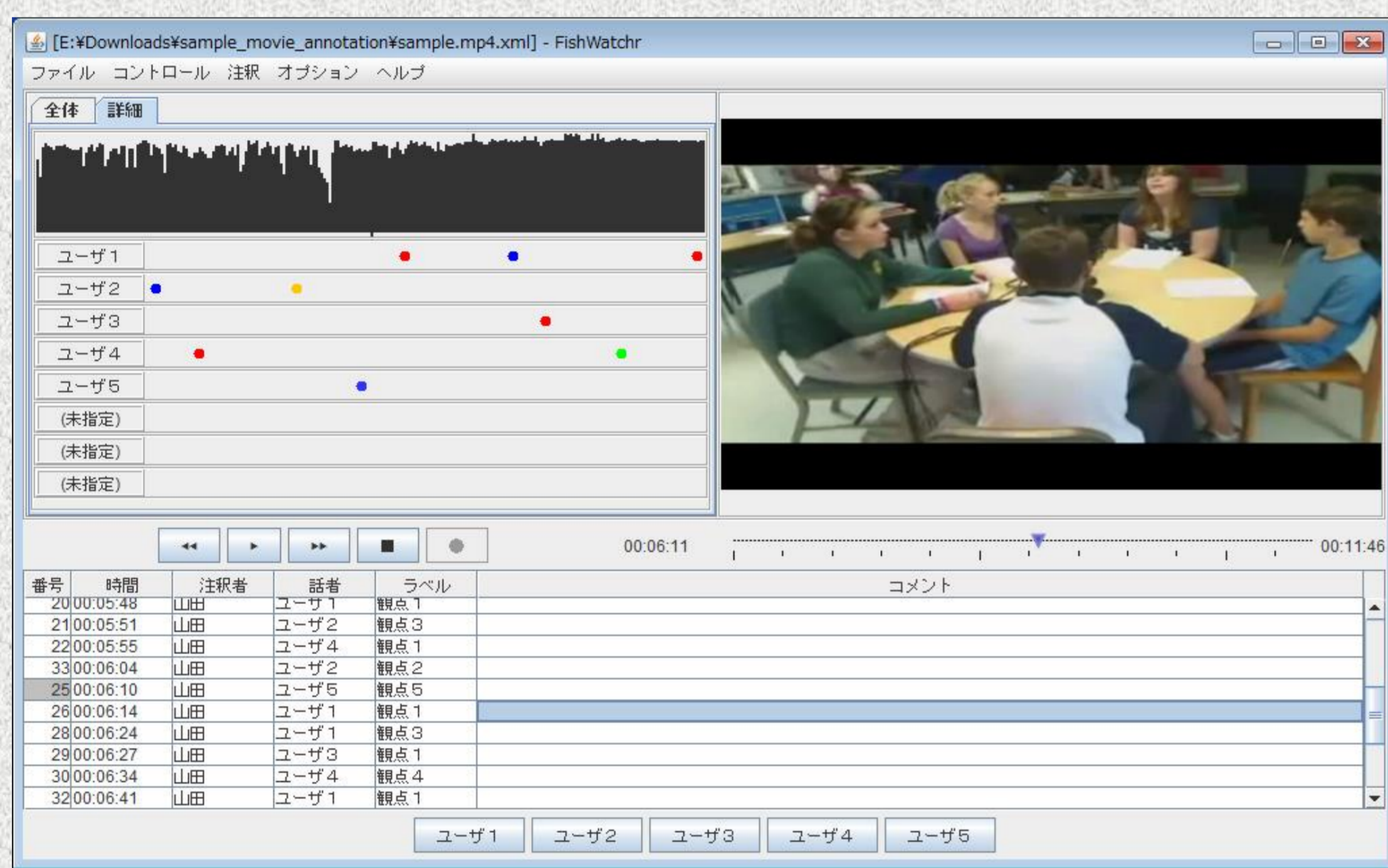
目的

- 学習者自身が活動に対してアノテーションし、その結果を学習者、教師が授業の中で利用できるようにすること
- ディスカッション観察支援システムFishWatchrを用いた実践方法の提案
 - 気づき支援型の方法(ディスカッション教育への応用)
 - ルール提示型の方法(グループ学習時の話し合いの練習)
- 方針
 - アノテーションツール導入が授業に与える影響をできるだけ小さくする
 - 既存授業との差異から提案手法を評価

ディスカッション観察支援ツールFishWatchr

特徴

- 学習者自身によるリアルタイムのアノテーション
- アノテーション結果を利用したグループ活動の支援



機能1: 活動へのアノテーション

- アノテーションモード
 - ファイルへのアノテーション
 - リアルタイムアノテーション(別機器で録画)
 - リアルタイムアノテーション(同時録音)
- アノテーション内容
 - 発話者, ラベル, アノテータ名
 - 自由記述のコメント

機能2: アノテーション結果の利用支援

- アノテーション結果の一覧表示
- アノテーション位置での再生
- アノテーション結果の統合
- アノテーション結果の export

授業での実践案

気づき支援型

- 実践の目的
 - フィッシュボールを実際に行う前の練習として実施する
 - 教材ビデオに収録されたディスカッションを観察し、観察方法、ディスカッション方法に関する気づきをグループで共有する
- 実践を行う授業の位置づけ
 - ディスカッション教育を専門に扱う授業(半期15回)
 - 話し合いの進め方, 問題解決プロセスに関する理論と技術を体験的に学ぶ

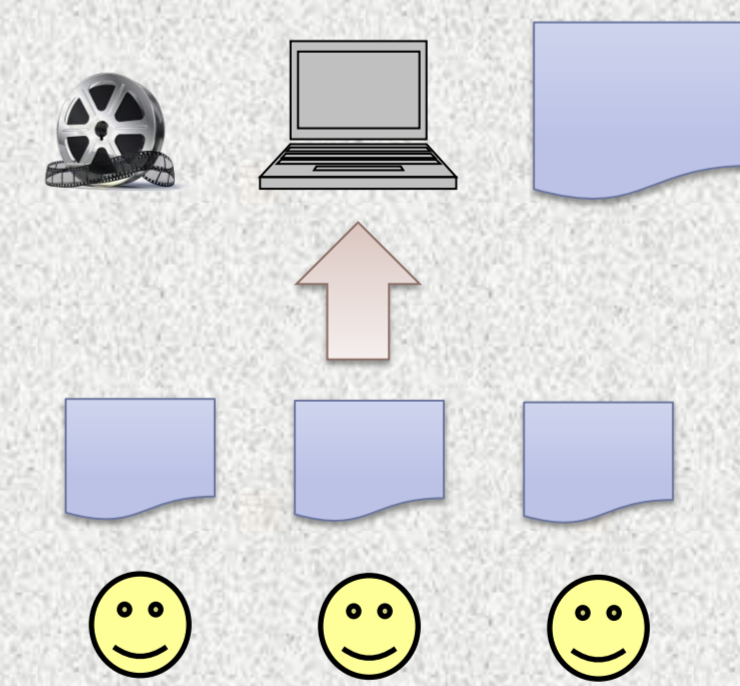
Step1 アノテーション(ビデオ)



通常のフィッシュボールと比較

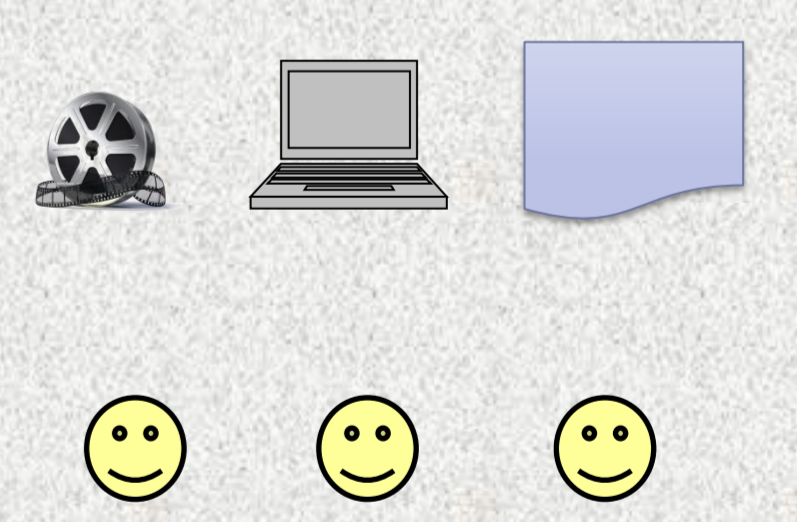
- 時間的な影響
- 追加的機器類

Step2 結果の統合



システムセットアップ, (アノテーション結果の統合) PC, ヘッドホン, メディアファイルの配布手段

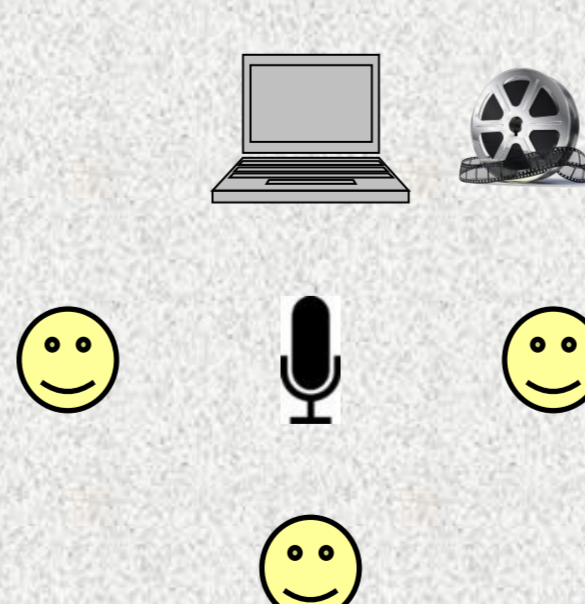
Step3 グループで共有



ルール提示型

- 実践の目的
 - 一定のルールに則った話し合いの仕方を学ぶ (ルール自体は教師が設定)
 - 実際の話し合い後に、自分の発話をルールに照らし合わせて評価する
- 実践を行う授業の位置づけ
 - 内容は問わないが、協同学習的な課題を実施する授業 (例: 敬語の規則をグループでまとめる)
 - 課題を実施する過程でグループでの話し合いを行う

Step1 模擬課題(話し合い)



通常の話し合い練習との比較

- 時間的な影響
- 追加的機器類

Step2 アノテーション(音声)



システムセットアップ, (アノテーション結果の統合) PC, マイク, ヘッドホン

Step3 結果統合+提出

